

女子はジュニア、男子はベテランが勝利

2007NTTトライアスロンジャパンカップ第3戦・
JTUスーパースプリントトライアスロン選手権第1戦酒田大会

優勝は女子がジュニアの佐藤優香、男子が山本淳一

6月17日(日)、山形県酒田市の特設コースで、2007NTTトライアスロンジャパンカップ第3戦・JTUスーパースプリントトライアスロン選手権第1戦酒田大会が開催された。スーパースプリント選手権の第1戦に指定された本大会には、伊藤弥生(ウイングスTC)や宇都宮涼太(ウイングスTC)などのジュニア・若手選手から、ベテランの山本淳一(K's-Y・グリーンタワー・稲毛インター)まで女子9名男子13名の幅広い層の選手が参戦した。

スーパースプリント選手権は、総合距離5.4km(スイム200m/バイク4km/ラン1.2km)を3ヒート行い、ヒートごとの順位をポイント化して、3レースの総合ポイントで総合順位が競われる。

午前11時20分にスタートの女子第1ヒートでは、スイムを得意とする足立真梨子(トーシン・日東紅茶・TEAM KEN'S)、中島千恵(トーシン・日東紅茶・TEAM KEN'S)がほかの選手を引き離そうとするが、距離が短いためなかなか思うようにならず、全員、ほぼ差がない状態でバイクに突入。

バイクではロングディスタンスを主戦場とする齋藤磨実(Team MASA/BOMA)と、ジュニアの佐藤優香(日本橋女学館高等学校)が追い上げ、結局ランで佐藤が粘り勝ってこのヒートを制した。

第2ヒートは、第1ヒートを3位で終えた中島がスタートから飛び出して1位に。2位には、太田麻衣子(千葉県連合)が入る。この時点で中島がトップとなるが、佐藤、齋藤とも2ポイント差で結果は第3ヒートに持ち越された。



午後12時50分にスタートした男子第1ヒート

佐藤優香(日本橋女学館高等学校)



スーパースプリントレースは初めてで、とても緊張していた。どういうレース展開になるのかも分からなかったが、「とにかく、あきらめないようにしよう」と決めていたので、結果を出すことができとてもうれしい。

山本淳一(K's-Y・グリーンタワー・稲毛インター)



(ダントツの優勝といわれたが)、今回は自分のレース結果よりも、「スーパースプリントシリーズ」が成功することを願って参加した。参加人数もまだ少ないが、無事に終わられたことが何より良かったと思う。

2007年度社団法人日本トライアスロン連合(JTU) オフィシャルスポンサー&オフィシャルパートナー



女子はジュニア、男子はベテランが勝利

2007NTTトライアスロンジャパンカップ第3戦・

JTUスーパースプリントトライアスロン選手権第1戦酒田大会

第3ヒートでも中島が第2ヒートと同様に飛ばそうとするが、佐藤、足立、齋藤らに追いつかれてしまう。結局、第2ヒートでは4位だった佐藤が再び1位となり、合計50ポイントで総合1位となった。齋藤、中島が次いで同ポイントだったが、「同点の選手は、3ヒートで2回先着している選手の順位が上になる」というルールに則り、齋藤が2位、中島は3位に入った。

午後12時50分スタートの男子第1ヒートは、山本淳一(K's-Y・グリーンタワー・稲毛インター)がスイムから他の選手を引き離し、バイク、ランまで独走状態。宇都宮涼太(ウイングスTC)、平松弘道(神奈川県連合)、富川理充((社)東京都連合)らがその後を追うが、トップには届かない。このヒートは山本が1位、平松が2位、宇都宮が3位で終了した。

第2、3ヒートも山本の独走は続いたが、第1ヒートを6位で終えた犬童太一(東京ヴェルディ)が追い上げ、両ヒートとも2位と健闘。結局、3ヒートともトップを制した山本が総合1位、すべて3位で終えた宇都宮が総合2位、後半に結果を残した犬童が総合3位となった。

なお、このレースの様子はフォトギャラリーでご覧になれます。



男女ともに、ベテラン、若手、ジュニア選手が表彰台にのぼった

齋藤磨実(Team MASA/BOMA)



スイムが遅いので、バイクで追い上げようとしていた。急きょ参加を決めたので、2位という結果でも満足している。次は7月のロングディスタンスの世界選手権に出場する予定なので、それに向かって頑張りたい。

宇都宮涼太(ウイングスTC)



初めてのスーパースプリントレース参戦だったので、分からない点が多かったが始めから攻めていこうと思っていた。短距離のランが得意なので、何とか最後で競り勝ってすべて3位で終わることができた。

2007年度社団法人日本トライアスロン連合(JTU) オフィシャルスポンサー&オフィシャルパートナー

